

# 図書館 多角的に知る

図書館をよく利用する人でも、その組織や制度、担う役割などについてじっくり考えることはそう多くないでしょう。「図書館情報学」の一端に触れることで、図書館に対するイメージがぐっと豊かになるかもしれません。



## きょうの授業 政策や制度から役割探る

### 「居場所」としても着目

現在、全国には3千を超えてる公共図書館がある。筑波大学（茨城県つくば市）の情報学群知識情報・図書館学類の池内淳准教授(46)は、政策や制度に着目しながら公共図書館を分析している。

1月末のゼミでは、昨秋から研究室に配属されたばかりの3年生や卒業間近の4年生、大学院生らが集まった。池内准教授が「自分でこれは面白いと思った問題を突き詰める方がいい成果につながる」と言うように、ゼミ生らの研究テーマは実に様々だ。公共図書館が行っている評価の実態について研究しているのは、3年生の盛野友海さん(21)。図書館法では各図書館が運営状況を評価し、その結果に基づいて改善に努めるよう規定する。評価の実施主体や結果の公表の度合いなど

を調査して、どんな特徴があるか明らかにする予定だ。盛野さんは小さな頃から本の虫で、司書になるのが夢だった。学類の前身で、2000年に筑波大学に統合された図書館情報大学について知り、興味を抱いた。「入学当初はとにかく図書館について学んだという思いばかりが前面に出ていた」と笑う。これまで2年ほど、大学近くの公共図書館で貸し出しや簡単なレファレンス業務のアルバイトも続ける。「大学での学びと実地の経験を一致させて将来に生かしたい」と話す。4年生の広瀬智鶴さん(22)は、昨年9月のゼミ合宿が印象に残る。仙台市を訪問し、東日本大震災の関連資料を集める東北大学付属図書館と、街づくりの資料が充実する市民図書館が入る複合文化



●池内淳准教授のゼミの様子。1月29日、茨城県つくば市の筑波大学。昨年9月のゼミ合宿では東北大学付属図書館などを見学した。仙台市、池内淳准教授提供

施設「せんだいメディアアテール」を見学。メディアアテールでは、建物内の図書館やギャラリー、ミニシアターなどの各施設がどう影響し合っているかにも興味を持った。研究テーマは「公共図書館の快適性」で、全国22館を調査。カフェなどの公共空間とも比較して、図書館では特に館内の音や照明が重要な指標になるとの結論を導いた。池内准教授は「かつては可視化しやすい貸出冊数などの数字

### ICT・哲学・基礎学が

池内准教授の専門は「図書館情報学」。社会に知識を伝える図書館の意義や役割、資料の収集・分類・利用といった図書館の業務に関する問題などを研究してきた図書館学に、1960年代に情報学が融合して形作られた。文字通りの「図書館」だけでなく、知識や情報について幅広く研究対象とする学問分野だ。学類に入学した学生はコンピュータの基礎からプログラミング、数学を全員が学ぶ。学科の名前にひかれて入学した学生からは「1年次からもっと図書館について学べると思った」との笑い話も聞かれるという。池内准教授は「英語、数学、プログラミング、哲学というのは学問にアプローチするための『言語』。その全てを必修科目にして早い時期に学んでもらいます」。

「典型的な文系人間だった」という盛野さん。最初は理数系の授業に戸惑ったが「情報分析の力 社会で役立つ」と話す。(佐藤剛志)



### 情報分析の力 社会で役立つ

筑波大学 池内淳准教授

図書館情報学は、司書になりたい人だけを対象とした学問ではありません。インターネットの時代を迎えて、大量の情報を素早く的確に分析する能力は世の中の中あらゆる場面で求められており、この学類での学びがきっと役立つはず。卒業生たちが、図書館に限らず民間企業や官庁などで幅広く活躍しているのは、その証拠と言えます。

皆さんには、身近な存在である図書館を入り口にしながらも、知識・情報の収集や整理、共有といった問題を文理両面から多角的に考えられるようになってほしいです。学類にはいろんな研究をしている先生がいるので、きっとあなたの興味関心に応えてくれる出会いがあるでしょう。